

平成16年度
(2004)
第44回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 大会寸評 】

大会期間は、爽やかな晴天に膚まれ最高のコンディションで熱戦が繰り広げられた。団体戦男子は、札幌藻岩高が15年連続25回目、女子は札幌清田高が3年ぶり1回目の優勝を遂げた。特に、札幌藻岩高は全国軸大会ベスト8の実力を遺憾なく発揮し、1ポイントも落とさない完全優勝を遂げた。また、女子の札幌清田高は、1年生の活躍が目立ち今後が期待される。また、第3位の学校に男子で函館東高、旭川東高、女子で旭川東高、帯広三条高が名を列ね地方勢の活躍が目立った。個人戦シングルスは、男子は千葉(札幌)、女子は田代(札幌清田)が優勝した。全国出場する男子は、武田(札幌藻岩)、岡田(札幌藻岩)伊藤葦(札幌光星)女子は渡辺(旭川東)、藤原(札幌清田)、武田(札幌日大)の各選手である。個人戦ダブルスは、男子は札幌藻岩どうしの決勝戦になり、千葉・武田組が制した。特に、千葉(札幌藻岩)は今大会三冠に輝き敬意を表したい。女子は、富山・武田(札幌日大)が優勝し、札幌清田高の三冠を阻んだ。全国に出場する男子は、岡田・中村組(札幌藻岩)、女子は、小川・青木(札幌日大)の各選手である。

【 全国大会 】

備前市で行われたインターハイ期間中、2個の台風に見舞われたが、奇跡的に大会日程には何ら影響することなく、予定どおりに試合は消化された。団体戦は男女共強豪校の強さを発揮し札幌藻岩高、札幌清田高がベスト16入りを果たした。今大会の団体戦では、男子は柳川高(福岡)、女子は共栄学園高(東京)が、1ポイントも落とさない完全優勝を遂げ、その強さが際だっていた。個人戦シングルスでは男子は伊藤(札幌光星)の1勝にとどまり寂しい結果だったが、女子の田代(札幌清田)は関東、関西勢を撃破し4回戦に進出したことは賞賛に値する。他にも1年・渡辺(旭川東)、1年・藤原(札幌清田)が初戦を突破したことで、来年の活躍が大いに期待される。個人戦ダブルスは、男女とも初戦で全て敗退する厳しい結果となった。ゲーム内容で特に見劣りする部分があった訳ではないが、大事なポイントや勝敗を左右するゲームをどうしても取れなかったようである。今大会の女子は、共栄学園高(東京)が三冠を達し、その強さが目立った大会であった。

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

我々藻岩高校男子テニス部は、今年優勝したことで高体連北海道支部大会15連覇を達成することができました。僕達今年のチームは、春の全国選抜大会でベスト8に入ることができ、全国の強豪チームと戦い、良い経験と自信を得ることができました。しかし、高体連の全道大会は、いくら自信があっても大きなプレッシャーや不安等がのしかかるものです。僕達は一つひとつの試合前に気合いを入れなおして、試合に臨みました。そして、決勝戦前は、絶対勝ってまた全国に挑戦しようと言って試合に入りました。決勝戦は、D、S1、S2、3面同時に行われました。それぞれのコート、自分の試合に集中して戦うことができ、優勝することができました。優勝が決まった瞬間は、やはりなんともいえない喜びと先輩達が築き上げてきた伝統を守れたという安心感がこみ上げてきました。そして、この瞬間、僕達はまた全国大会に挑戦する権利を手に入れました。全国大会では、春に入ったベスト8以上を目標に頑張っていきたいです。そして、何より僕達を支えてくれた先生、家族、OBの方々、部員みんなに感謝の気持ちでいっぱいです。

僕は藻岩高校のテニス部員であることを誇りに思っています。そんな藻岩の全道大会の偉大な連覇記録を絶やさずに、いつかインターハイ制覇という新たな伝統を作ってほしいです。藻岩高校テニス部はすばらしい。

(札幌藻岩 主将 武田 芳明)

優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

やったとメンバー全員が声をあげた。これが札幌清田が3年ぶりに団体優勝を勝ち取った瞬間だった。仲間達は泣いて喜び、そして抱き合った。本当にみんながひとつになれた。私達は2年前、決勝で競って惜しくも負けてしまった。そして去年も同じく決勝で大差で敗退した。私達はその時本当に悔しかった……。その思いがずっと心の奥に残っていた。

団体戦決勝の前日、私達は明日は絶対に最後まであきらめないで戦い、そして勝とう、とみんなで決意し合った。そして団体戦当日、試合では苦しい場合が度々あった。でも仲間達の必死な応援が胸に響き、それを力に変えて頑張ることができた。決して一人では勝つことはできなかったと思う。選手だけではなくメンバー全員が戦っていた。優勝した時は、喜びと同時に、今まで支えて下さった沢山の方々への感謝の気持ちでいっぱいになった。そして私達3年生にとって最後の全道大会で優勝することができ、本当に良かったと思う。

8月1日からはインターハイ全国大会が始まる。北海道代表としての自覚をメンバー全員がしっかりと持ち、胸を張って岡山のテニスコートに立てるよう精一杯練習を積み重ね、一つでも多く勝てるように頑張りたい。それから最後に、今回この全道大会を運営して下さった役員の方々、その他沢山の方々、本当にありがとうございました。

(札幌清田高校 主将 田代 美智)

全国高校総体（第94回全国高等学校庭球選手権大会） 岡山

8月1日～8日 岡山県備前テニスセンター

男子	個人戦シングルス	優勝	吉備 雄也（柳川）
女子	個人戦シングルス	優勝	田中 真梨（共栄学園）